

上げます。

引用文献

薄葉満、1986. トウゴクヘラオモダカについて. 水草研究会報 25 : 16.
 大場秀章、1986. 日光地区高等植物目録. 「日光の動植物」(日光の動植物編集委員会)、228、月刊さつき研究社.
 小倉洋志・他、1989. 八溝の自然植物. 栃木県博研報 No.7 : 339.
 Samuelsson, 1932. *Alisma rariflorum* Sam. n. sp.. *Arkiv for Botanik* Bd 24 A. N:o 7 : 32-33.

澤田武太郎、1935. 箱根植物雑記(その三). 植物研究雑誌 11 No.7 : 522.
 生物学御研究所編、1962. 那須の植物. 保育社.
 生物学御研究所編、1972. 那須の植物誌. 保育社.
 生物学御研究所編、1985. 那須の植物誌続編. 保育社.
 関本平八、1941. 栃木県植物総覧. 関本平八.
 関本平八、1951. 続栃木県植物総覧. 學海社.
 栃木県植物同好会、1968. 栃木県植物目録. 栃木県植物同好会・栃木県植物誌編纂委員会.
 中井猛之進・伊藤洋、1936. 日光の高等植物目録. 「日光の動物と植物」(日光東照宮編纂)、p96、日光東照宮.

ハス田のウキクサ

嶋田 直哉

昨年11月下旬、千葉県佐原市営水生植物園を見に行つた際に霞ヶ浦、北浦周辺を回ってみることにした。浦周辺の耕地はその殆どがハス田と言う程、レンコンの大産地である。もっともハスの葉は枯れレンコンは既に収穫されていたが、漕スキーで腰まで入って最後の収穫を行っていたので、車を止めて水田を見に行くことにした。周辺が一望できる所に立ってみると、赤と緑に染まったコントラストの良い水田が点々とあった。赤色の方は、ハスの枯れた後に一面に広がった、一成体が十円銅貨程の見事なオオアカウキクサであった。しかし、私が気にかけていた物は他にあった。緑色に染まった水田である。そこには、ウキクサ類がマット状に広がっていたが、いつも見るものとは明らかに違っていることに一見して気づいた。初冬だというのに濃緑色で厚みがあり光沢ももっていたからだ。サンプリングして検索しようと持ち帰ることにした。サンプリングを終えた私は、遠くから赤と緑の水田を見ながら、この水草は“浅田鮎”のようだと思ひながら帰途についたのだ。

しかし、検索してみると該当するものがなかったので会報に報告するつもりであった。その矢先、会報42号の「角野：日本にもコウキクサは分布する」を読んで大変驚いた。私がハス田で見たウキクサ類は、正にコウキクサ *Lemna minor* L. に違いなかったからである。

そのコウキクサの特徴は、葉状体は距離をおいて見ても、その表面が盛り上がっていて厚みがあるのがわかり、かつ他のウキクサ類にはない濃緑色である。また裏面は薄い鮮緑色で赤味は帯びていない。サンプリングした生品は、水温4℃の今でも常緑で越冬中である。産地では他にウキクサが少量あったが、ハス田ではコウキクサが優占種であり多産している。浦周辺のハス田や民家付近の水路などにも産することから、分布は限られたものではなく、「日本じゅうにあると思う。」(角野、前出)に私も同感である。

会員の方々も早春に濃緑色で“浅田鮎”のような水草、コウキクサを発見してみるのもよいかと思います。最後に、私がハス田を訪れるのと同時期に、角野先生がその地を訪れてコウキクサを確認していたとは何という偶然であろうか。(1991・1記)

○C. D. K. Cook『Aquatic Plant Book』(SPB Academic Publishing, 1990, A4 228p, 12, 000円)

世界の水草を網羅した本としては、1974年に出版された“Water Plants of the World”があるが、カバーできていない水草のグループや内容の誤りが多いので新しく書き直したのが本書であると前書きにある。本書では世界の水草87科407属を取り上げ、各属へいたる検索表とそれぞれの科と属についての記載がある。水草各属の概要を知るには便利な本だが、種に関する記載はない。(角野康郎)